

| 科目名 | 医療と文化 Culture & Medicine | | 担当教員 (研究室番号) | 浦野 茂 (503) | | 教員への連絡方法 (メールアドレス) | shigeru.urano@mcn.ac.jp | | | | | |
|--------------------------|---|--|--|------------|----------|-----------------------|-------------------------|-----------|----------|----|------------|---|
| 履修年次 | 2年次 前期 | 科目 区分 | 教養・基礎科目 | | 選択 区分 | 選択 | 単位数 (時間) | 2(30) | 授業 形態 | 講義 | 科目等 履修生 | 可 |
| | | | | | | | | | | | オープンクラス | 可 |
| 科目目的 | 病気と障害の当事者の語りを読み解きながら、病気と障害の経験とその背景にある文化のあり方を理解することがこの科目の目的です。 | | | | | | | | | | | |
| ディプロマ・ホルダー(DP) | 主要なDP | B 多様な考え方や様々な背景を持つ人々の特徴を理解するための、幅広い教養を身につけている。(知識・理解) | | | | | | | | | | |
| | 関連するDP | A 人々の生命と人間としての尊厳及び権利を尊重し、共感的に関わる姿勢を身につけている。(姿勢・態度) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 病気や障害はともすると個人の身体や心の問題として捉えられがちです。ですがこれらを具体的な社会における生活状況において人びとの持つ経験として捉え直すことにより、病気や障害にかかわる文化の存在に気づき、そのあり方を理解することが、この科目の到達目標です。 | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(基準) | 授業における発表内容(50%)、各授業における参加態度・小レポート(40%)、期末レポート(10%)による。 | | | | | | | | | | | |
| 再試験の有無と基準等 | あり。追加レポートによる。 | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | なし。 | | | | | | | | | | | |
| 参考書等 | 認定NPO法人健康と病の語りディベックス・ジャパン(編)『認知症の語り：本人と家族による200のエピソード』(日本看護協会出版会, 2016年)。 | | | | | | | | | | | |
| 学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待 | インターネットに公開されている下記の資料(映像・文章)を授業資料として用います。発表者と履修者は各回とも事前に指定された資料を閲覧したうえで授業に参加してください。 (1)認定NPO法人 健康と病の語り ディベックス・ジャパン (https://www.dipex-j.org)。 (2)NPO法人日本臨床研究支援ユニットJPOP委員会 (http://jpop-voice.jp/index.html)。 | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | |
| 回 | 学習項目 | | 学習内容 | | | | | 主担当 教員 | 授業 方法 | | | |
| 1回 | イントロダクション | | 授業の目的と概要、進め方について説明する。 | | | | | 浦野 | 講義 | | | |
| 2回 | 文化とはなにか | | 文化の概念について説明する。そのうえで、この概念によりながら現代の社会生活の特徴と問題について理解する。 | | | | | 浦野 | 講義 | | | |
| 3回 | 病気と文化 | | 「病い」の概念について説明する。そのうえで、この概念によりながら病気をめぐる多様な生活様式・実践とその課題について検討する。 | | | | | 浦野 | 講義 | | | |
| 4回 | 病いを語ること | | 語るという行為の特徴を把握することにより、病気・障害の経験とその理解にとって語ることもつ意義を理解する。 | | | | | 浦野 | 講義 演習 | | | |
| 5回 | 乳がんの経験と文化 | | 乳がんの当事者の語りから、乳がんの経験を成り立たせている文化的要素について検討する。 | | | | | 浦野 | 講義 演習 | | | |
| 6回 | ディスカッション：乳がんの経験と文化について | | 以上の検討を踏まえ、乳がんの当事者をめぐる経験を成り立たせている文化的要素について、性別や性役割、セクシュアリティを中心に検討する。 | | | | | 浦野 | 講義 演習 | | | |
| 7回 | 慢性の痛みと文化 | | 慢性痛当事者の語りから、慢性痛経験に含まれる文化的要素について検討する。 | | | | | 浦野 | 講義 演習 | | | |
| 8回 | ディスカッション：慢性の痛みと文化について | | 以上の検討を踏まえ、慢性痛経験に含まれる文化的要素について、感覚経験の生活における位置づけを中心に検討する。 | | | | | 浦野 | 講義 演習 | | | |
| 9回 | 障害と文化 | | 「障害(ディスアビリティ)」の概念について説明する。そのうえで、この概念によりながら障害をめぐる多様な生活様式・実践とその課題について検討する。 | | | | | 浦野 | 講義 演習 | | | |
| 10回 | 認知症をめぐる経験と文化(1) □ | | 認知症当事者の語りから、認知症をめぐる経験を成り立たせている文化的要素について検討する。□ | | | | | 浦野 | 講義 演習 | | | |
| 11回 | 認知症をめぐる経験と文化(2) | | 認知症の家族介護者の語りから、認知症の介護をめぐる経験を成り立たせている文化的要素について検討する。 | | | | | 浦野 | 講義 演習 | | | |
| 12回 | ディスカッション：認知症をめぐる経験と文化について□ | | 以上の検討を踏まえ、認知症をめぐる経験を成り立たせている文化的要素について、認知的能力の社会的位置づけを中心に検討する。 | | | | | 浦野 | 講義 演習 | | | |
| 13回 | 統合失調症をめぐる経験と文化(1) | | 統合失調症当事者の語りから、統合失調症の経験を成り立たせている文化的要素について検討する。 | | | | | 浦野 | 講義 演習 | | | |
| 14回 | 統合失調症をめぐる経験と文化(2) | | 統合失調症患者の家族の語りから、統合失調症をめぐる経験を成り立たせている文化的要素について検討する。 | | | | | 浦野 | 講義 演習 | | | |
| 15回 | ディスカッション：統合失調症をめぐる経験と文化 | | 以上の検討を踏まえ、統合失調症をめぐる諸経験を成り立たせている文化的要素について、とりわけ精神病とスティグマとの関係を中心に検討する。 | | | | | 浦野 | 講義 | | | |

学 習 課 題

語りの検討の授業（5, 7, 10, 11, 13, 14の各回）に先立ち、指定された資料を視聴してくる。
各回の授業時間において、授業内容についての小レポートを作成・提出すること。

実務経験を活かした教育の取組